

科の説明

乳癌に対する薬物療法を積極的に行っています。標準的な化学療法を安全に、出来るだけ高いQOLを維持しながら続けられるように治療を計画しています。また、緩和ケアチーム・社会事業部との連携を大切にしています。

一般目標

悪性疾患の治療は腫瘍の性質（乳癌の場合：異型度、ホルモン受容体やHER2過剰発現の有無など）、病期、併存疾患、Performance status、患者さんや家族の希望などを考慮することが大切である。抗がん剤治療の適応、有害事象、その限界を理解し、悪性疾患を診療する際の基本的な態度を身につける。

行動目標・経験目標

- 1) 乳癌の疫学、診断、治療の基礎を理解し、説明できる。
- 2) 組織診断、画像所見などの意味を理解し、説明できる。
- 3) 手術、放射線、抗がん剤などそれぞれの治療目標を理解し、説明できる。
- 4) 抗がん剤治療の適応、レジメン、効果、有害事象などを理解し、実践できる。
- 5) チーム医療の重要性を理解し、スタッフと協力して診療できる。
- 6) 全人的な苦痛を理解し、ケアすることができる。

指導体制

外来および病棟において、乳癌などの悪性疾患を副主治医として診療する。
救急患者の診療については、指導医・研修協力医とペアになり、当番となった日直や当直の診療を担当する。

定例検討会

第1火曜日17時より多職種（医師、看護師、薬剤師）による症例検討会を行う。
毎週水曜日18時より血液内科・感染症内科・呼吸器内科・腫瘍内科での症例検討会を行う。

定例研修会等

会名	世話人	会場	開催曜日
癌チーム医療研究会	中瀬一則	津	年2回
三重乳癌薬物療法研究会	水野聡朗	津	年1回

具体的な研修方法・留意事項

- 1) 朝8時30分に医局に集合し、担当患者を振り分けられる。
- 2) 受け持ち患者の診療状況を常に指導医・研修協力医に報告し、病状の把握に独断のないよう努める。必要とあれば、他科の指導医にも躊躇無く指導をうける。
- 3) 当直明けは必要な申し送りを指導医・研修協力医にし、帰宅する。
- 4) Essential Minimumに力点をおいた研修を行う。
- 5) 定期的に行われるカンファレンスに出席する。
- 6) 症例報告会、研修会、学会にも積極的に参加する。
- 7) 化学療法・輸血療法・感染症管理など病棟、カンファレンスで経験する。
- 8) 胸水・腹水の穿刺やドレナージ、中心静脈カテーテル留置などは指導医・研修協力医のもとに実施する。
- 9) 診療記録（カルテ、サマリー、診断書、紹介状など）は適切に作成し、指導医・研修協力医に確認してもらう。